

卒論・修論を L^AT_EX で書く

弘前大学工学部地球環境防災学科
学籍番号 名前

2020 年吉日

目次

第1章	はじめに	1
1.1	現状と問題点	2
1.2	解決策の提案	3
1.3	数式の書き方	4
第2章	つぎに	5
2.1	文献の引用の仕方	6
2.2	図の挿入の仕方	7
第3章	最後に	8
付録A	付録があるときは	10

第1章 はじめに

最初はイントロ的なことを書く。

1.1 現状と問題点

最近の現状と問題点とか。

1.2 解決策の提案

こうしたらいい, とか。

1.3 数式の書き方

アインシュタイン方程式は以下の通りである。

$$R_{\mu\nu} - \frac{1}{2}g_{\mu\nu}R = \frac{8\pi G}{c^2}T_{\mu\nu} \quad (1.1)$$

第2章 つぎに

この辺から本番。

2.1 文献の引用の仕方

データは参考文献 [1] にあったものを使った. この文献 [2] も参考にした。

2.2 図の挿入の仕方

第3章 最後に

結論とか，まとめとか。最後にいうのもなんだが，ベクトルの書き方。

- 普通の α は `\alpha` で書く。
- `$\vec{\alpha}$` で $\vec{\alpha}$
- `\usepackage{bm}` している場合は `$\bm{\alpha}$` で α
- 並べると， $\alpha, \vec{\alpha}, \alpha$

謝辞

謝辞には第何章とかの番号をつけなくてもよいので，そんなときは，`\chapter*{ }` という具合に書きます。

みなさん，ありがとう．（普通の人が見るのは，イントロと謝辞だけ... という説もあるから，忘れないで書く．）

付 録 A 付録があるときは

プログラム文とかを書いてページ数を稼ぎたいときは，以下のようにしてみます。

```
#include <iostream>
using namespace std;
int main() {
for(int i = 1; i <= 5; i++) {
cout << "こんにちは，C++ の世界！ " << i << endl;
}
return 0;
}
```

\usepackage{ascmac}して screen 環境を使うと，枠がつきます。

```
#include <iostream>
using namespace std;
int main() {
for(int i = 1; i <= 5; i++) {
cout << "こんにちは，C++ の世界！ " << i << endl;
}
return 0;
}
```

関連図書

- [1] 国立天文台編，理科年表 (丸善)
- [2] 天文年鑑，誠文堂新光社。